

ごあいさつ

当社は1968年、前身である旧富士石油株式会社が千葉県の袖ヶ浦の地にて袖ヶ浦製油所の操業を開始して以来、「安全の確保と地球環境の保全」に全社をあげて取り組んでまいりました。

まず、安全の確保のため、袖ヶ浦製油所では、より実践的に進化させたKY(危険予知)活動を中心に、設備のリスクアセスメントや第三者による保安力アセスメントにより抽出された課題への対応などを実施し、継続的改善に努めています。更に、IoT等の最新技術を活用するなどして自主保安の高度化にも取り組んでおります。

また、巨大地震や台風等の自然災害へ備えるべく、製油所設備の強じん化対策や非常用発電機の配備を進め、事業継続計画(BCP)に基づく訓練を定期的実施しています。加えて、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策はじめ、従業員の健康を守るとともにエネルギーの安定供給の使命を果たし続けるための各種対策も実施しております。

次に、地球環境の保全に関しては、環境保全関連装置の安定運転、廃棄物の削減・再資源化、水資源の節約、化学物質の管理促進などの活動を行っております。また、我が国政府の目標である2050年カーボンニュートラルを踏まえ、事業活動における徹底した省エネルギー対策を深化・加速させるとともに、現在、研究開発を進めている次世代バイオ燃料など当社の既存インフラ・知見が活用できる脱炭素技術については、まずは様々なステークホルダーとの連携を通じて積極的に追求していくことで、社会全体のカーボンニュートラル実現に貢献してまいります。

尚、2021年7月には、企業の気候変動への取り組みを具体的に開示することを推奨する国際組織である気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同表明し、年度末にかけて提言で推奨されるシナリオ分析を行いました。今後こうした活動を継続し、TCFD提言に沿った情報開示を積極的に行ってまいります。

今後も、人々の暮らしを支える社会インフラの一端を担う企業として当社が企業活動を行う上で最も重要な課題の一つとして捉える「安全の確保と地球環境の保全」に向け協会の皆さんと一丸となって全力で取り組みながら、エネルギーの安定供給という使命を果たしてまいります。こうした私達の取り組みを、富士石油「安全環境報告書2022」に取りまとめたのでご報告するとともに、今後とも当社事業と活動へのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年8月



富士石油株式会社

代表取締役社長

山本 重人

